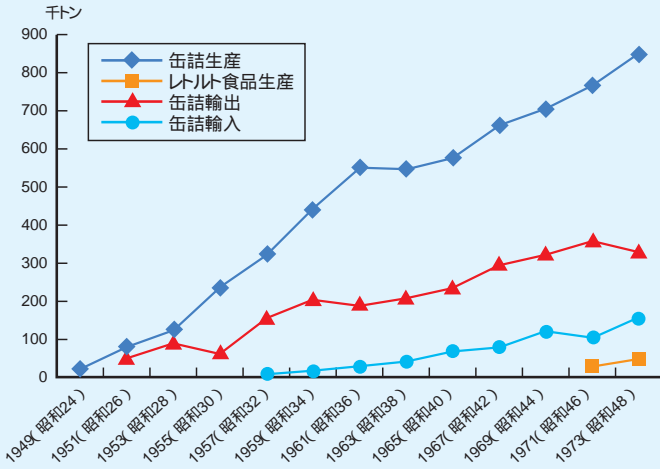


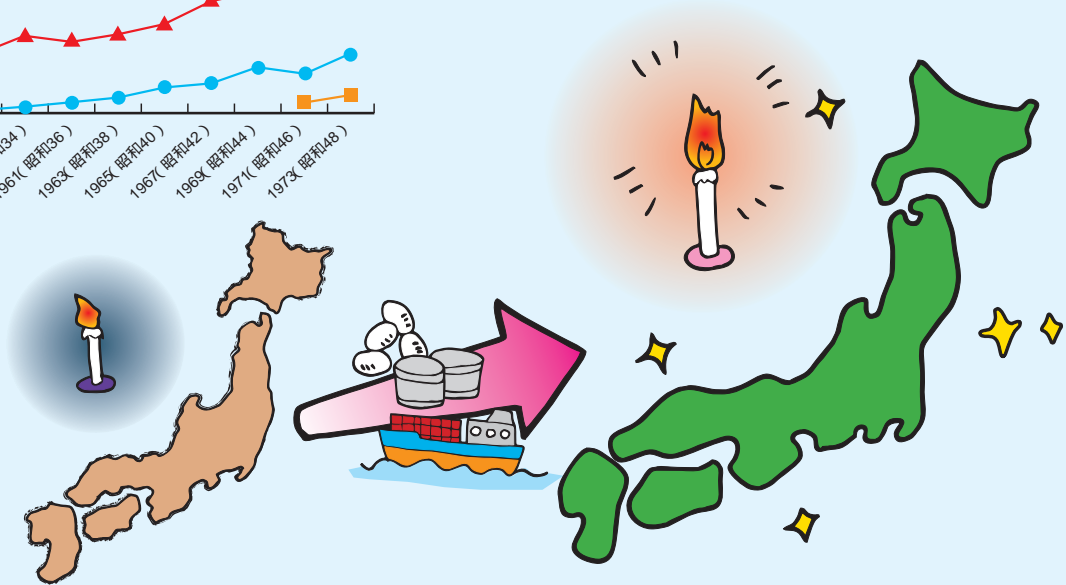
## 第四期 戦後復興、輸出の時代（昭和20年～29年）

戦後～石油ショック期の缶詰、レトルト食品生産、輸出入



缶詰は、重要な輸出物資として戦後経済復興を果たす役割を担うと同時に、国民の食糧確保の役割を求められた。このことから、缶詰産業は重点産業に位置づけられたが、技術導入や設備更新などに要する資金不足、原料調達難でなかなか実効性をあげることが難しかった。

昭和20年の缶詰生産は最盛時の40分の1程度の38万箱(日露戦争前とほぼ同水準)に落ち込んだ。



### 輸出の再開

- ・昭和22年の缶詰輸出量2,059トン
- ・昭和25年の缶詰輸出高が生系に次いで第二位（輸出物資としての地位を高める）

### 缶詰協会が誕生(昭和23年)

(社)日本缶詰研究所(昭和21年設立)と日本缶詰製造業組合(昭和20年設立。22年に缶詰振興会に改称)と当時休眠状態にあった日本缶詰協会との3団体を一体化した昭和25年5月に「日本缶詰協会」に改称。昭和27年に「日本缶詰協会」と改称して、創立当時の名称に戻る。事業目的には、

- 国民生活の安定のための食糧確保
- 戦争被災缶詰工場の復興援護
- 国民の栄養摂取に対する方策
- 食糧増産施設への支援、が挙げられた。



### 日本缶詰協会が中心になった統制撤廃運動

缶詰の統制撤廃(昭和24年)、缶詰の物品税と空缶の統制撤廃(昭和25年)。